

宮崎大学医学部第一内科腎臓研究室

佐藤 祐二／藤元 昭一*
Yuji SATO Shoichi FUJIMOTO

宮崎大学医学部附属病院血液浄化療法部
同 血液・血管先端医療学講座（教授）*

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/medicin1/>

◆ 沿革 ◆

当研究室は、前身の宮崎医科大学が国の一県一医大構想により、1974年に設立されたことに始まる。内科学第一講座のなかに、高血圧研究室、循環器研究室、消化器研究室とともに腎臓研究室が開設された。当初は大学と宮崎市内の数カ所の関連病院のみの体制であったが、入局者の増加とともに、現在は宮崎県内に複数の関連病院と、県内外に開業あるいは勤務のOB、OGがおられる。2003年には宮崎大学と統合し、宮崎大学医学部となった。

◆ 診療 ◆

診療の柱として、IgA腎症などの慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急速進行性糸球体腎炎、慢性腎臓病の管理、および透析管理を行っている。IgA腎症では、以前より扁桃腺摘出を治療の一環として積極的に行ってきた経緯があり、その効果についていくつか報告してきた。しかし、IgA腎症全例に扁桃腺摘出が有効とは限らないと考えられ、適応判断が今なお課題である。腎臓病にはこれまでなかなか画期的な新薬がなく、他領域で使用されていた薬物が腎領域にも使用されてくる場合が多い。それでも最近では、頻回再発型ネフロー

ゼ症候群やステロイド抵抗性ネフローゼ症候群へのリツキシマブ、多発性嚢胞腎へのトルバプタン、ループス腎炎へのミコフェノール酸モフェチルなど、選択肢が広がってきたことは期待が持てる。

◆ 透析 ◆

透析に関しては、当初は病棟に附属する形で、透析室としてわずか4台の透析台で凌いできたが、2006年に中央診療部門のなかに血液浄化療法部が設置され、その後、病院改築時に10台へ拡充された。外来透析は行っておらず、入院下での透析管理を行っている。現在は、入院予約から入院までの待ち時間はほとんどなく受け入れを行うことができている。患者内訳としては、当科での透析導入を含めた患者数がほぼ半数で、残り半数は他科入院となっている。長期透析患者増加に伴う整形外科的疾患や、心臓バイパス手術・弁膜症増加、特に大動脈弁狭窄症に伴う弁置換術など、心臓血管外科関連疾患患者が多くなってきた。

◆ 臨床研究 ◆

臨床研究では、IgA腎症の疫学研究として他大学との共同研究に参加している。これまでいくつかの成果を報告できた。前述のように扁桃腺摘出